# 『陸上競技研究』掲載論文訂正に関するご報告と対応のお願い

2023年2月発行の『陸上競技研究第131号』掲載論文に，誤りがあったことが判明しました。これに伴い，再審査を実施し，必要な訂正を施しました。購読会員の皆さまに経緯を下記の通りご報告するとともに，訂正のご対応をお願いいたします。

（陸上競技研究編集委員会）

**【訂正対応論文】**

中西啄真，坂本達哉（2023）国内一流女子やり投武本紗栄選手における投てき動作の分析－第98回関西学生陸上競技対校選手権大会における最高記録と最低記録との比較－．陸上競技研究，131：28-32.

**【訂正の経緯】**

・筆頭著者の報告により，上記「実践研究」で投稿した図2（P31掲載）に異なるグラフが用いられていたことが判明したため，再審査を実施。図版および関連する記述に必要な訂正を確認し，2025年2月3日付で承認した。

**【訂正箇所および対応について】**

・第131号P31：図2の差し替え（訂正A）および本文（2段目2～9行目）の差し替え（訂正B）原稿を作成。
・該当箇所を日本学生陸上競技連合公式サイト内に掲載し，各購読会員にダウンロードと貼込みをお願いする。

**＜訂正A：陸上競技研究第131号P31図版＞**

※「図2　両試技における体幹前後屈，肩回旋，腰回旋の角速度の時系列変化」の差し替え

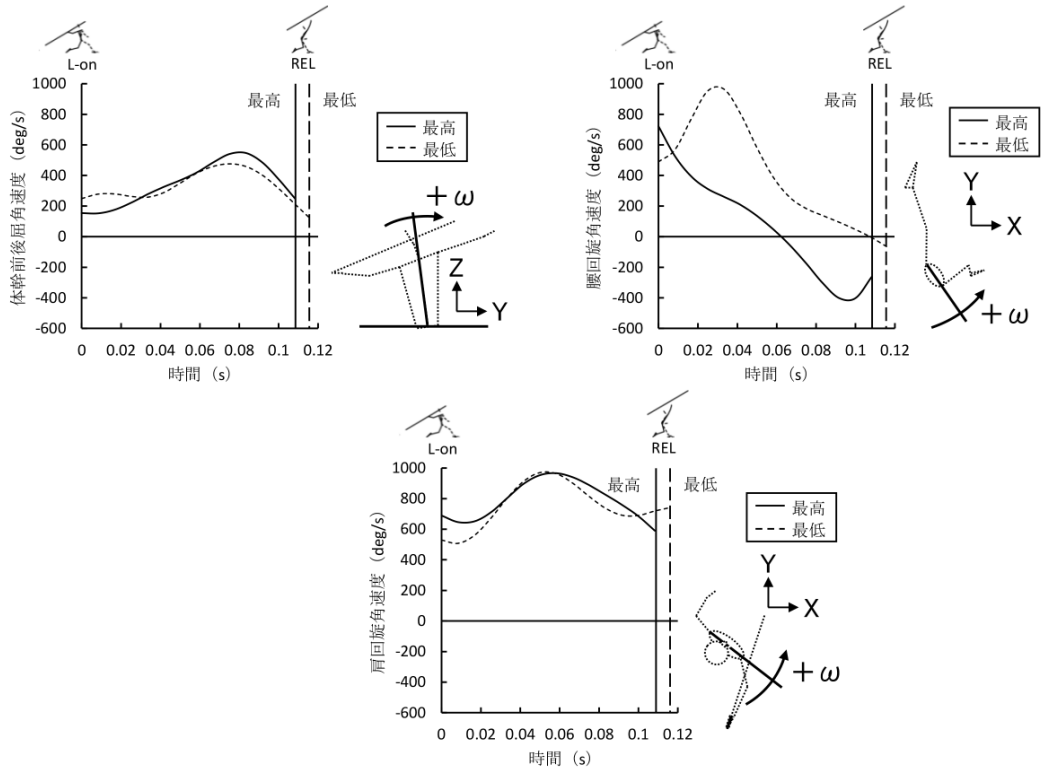


図2　両試技における体幹前後屈，肩回旋，腰回旋の角速度の時系列変化

**＜訂正B：陸上競技研究第131号P31本文＞**

※図2の訂正に伴い，記述を訂正した右段2～9行目の差し替え

腰回旋角速度は最高試技ではL-on直後も速度が減少しているのに対して，最低試技ではL-on直後に一時的に速度が増加した（図2）。肩回旋角速度は最高試技の方が最低試技より比較的高い速度で増減した（図2）。これらのことから，最高試技は最低試技よりL-on直後に腰の左回旋を素早く止めたことで，肩を比較的高い速度で左回旋させることができ，体幹の長軸回転速度が高まったのではないかと考えられる。